

平成30年8月9日
 東部農林振興センター 雲南事務所 農業普及部

標 題 連作対策で土壌還元消毒を学ぼう！ ニューファーマー研修開催

(ダイジェスト)

飯南町では果菜類の施設栽培を新規就農者の経営の柱として推奨していますが、連作障害が課題となっていました。8月1日に飯南町上赤名地区休耕ハウスにてニューファーマー研修会を開催し、土壌還元消毒方法を学びました。参加者は暑いなか現地を熱心に確認し、座学でも質問や意見が多数出て盛況でした。併せて地域ぐるみでの新規就農者育成の取組事例の説明も地域の世話役農業者が行いました。

飯南町ではH22年から飯南町農林業定住研修制度を創設し、Uターン者の就農を積極的に受け入れてきました。とくに経営の中心としてトマト、パプリカなど果菜類の夏秋栽培による施設園芸を推奨してきました。リースハウス制度や共同選果施設など環境が整い始めてきましたが、新たな問題として連作障害による土壌病害が発生し始めました。

そこで、鹿児島から飯南町に来て果菜類の施設栽培を行っている(株)福岡園芸の福岡会長を講師に、8月1日(水)に飯南町上赤名地区休耕ハウスで土壌還元消毒の研修会を開催しました。認定新規就農者をはじめ町内で就農した青年農業者や研修生など22名の参加がありました。

事前に土壌還元消毒作業を行った休耕ハウスの見学、作業手順についての座学がメインで、暑いなか参加者からは多数の意見や質問が出ました。特に効率よく熱を上げるための工夫について参加者の関心は高かったようです。今後は土壌還元消毒を毎年所有ハウスの2割ほどローテーションで行い土壌病害の発生しにくい経営を行う予定です。

また、今回の会場となった休耕ハウスは、昨年まで認定新規就農者が地区の世話役農業者から廉価で借り受け4年間パプリカ栽培を行ったハウスです。経営が順調であったため、同地区内でリースハウス制度を活用し規模拡大したため空いたものです。再来年度には同様に研修終了した新規就農者へ貸し出すことが決まっています。この取組を地区ぐるみでの新規就農者育成モデルとして世話役農業者から説明いただきました。

飯南町就農支援チームでは新規就農者や研修生が抱える課題を抽出し、タイムリーな研修が行えるよう今後も支援を行っていきます。



暑いなか熱心に質問します



ハウス内の様子 約70℃



会場は満席でした